

小学校の保護者活動が社会的ネットワークの形成と主観的幸福感に与える影響

松村 暢彦¹・近藤 慎²

¹正会員 愛媛大学大学院教授 理工学研究科生産環境工学専攻 (〒790-8577 松山市文京町3番)

E-mail:matsumura@cee.ehime-u.ac.jp

²非会員 (株)コングレ (〒160-0004 東京都新宿区三矢六丁目13-5)

小学生の児童を持つ子育て中の親世代は壮年期にあたるため、仕事で忙しく家族や自分の時間の確保が難しい。まして、地域活動に参画する時間を確保することは難しいため、地域活動や参加型まちづくりに参加するのは高齢者に偏っている傾向にある。そのようななか、子どもが小学校に通っている間は、小学校の保護者活動を通じて保護者と知り合うことができる。そこで小学校の保護者活動は自分の子どもや小学校のためだけにあるという認知的バリアを解消し、地縁ネットワークの形成の場として機能していることを検証することを目的としている。小学校の保護者活動を保護者同士の接触度合いから分類し、要因分析を行った結果、小学校の保護者活動によるネットワーク形成が地域参画意識向上へ大きく寄与していることが明らかになった。

Key Words : *Parents Activities, Community participation, Opened school and Social Capital*

1. 研究の背景と目的

近年では「開かれた学校」というキーワードの下、家庭・地域の意向を反映する学校運営とともに家庭や地域社会の支援を受けながら子育てを行っていくことが必要とされている。このように小学校と地域との関わりは次第に深くなっており、それに伴い保護者の活動も地域との共同で行うような活動へと広がりを見せている。また、「おやじの会」といった父親が主体となり行う活動も生まれてきており、これらの新しい動きによって、子どもの存在をきっかけとした大人同士のネットワーク形成が地域参画に対して有効に働く可能性が考えられる。しかしながら、壮年世代は仕事や育児などで忙しく学校への関与も限定的になっているという現状がある。

一方、地域活動からみると、多くの地域で地域コミュニティや地縁活動の再評価が進んでいるが、こういった地域への参画は現状では比較的時間に余裕のある高齢者に偏りがちであり、その後継者不足が大きな課題となっている。そのため、行動力や人脈に優れ、今後のまちづくりにおいて後継を担っていくであろう壮年世代の地域参画の推進は急務であると言える。

本研究ではこのような視点より、壮年世代の小中学校で実施されている子育て活動への参加の実態を把握するとともに、それらの活動を通じて形成されるパーソナル

ネットワークに着目し、地域参画の基礎的な要件となる地域への態度とコミュニケーションスキルとの関連性を明らかにすることを目的とする。本研究では小学校の保護者活動に対して消極的な傾向がみられながらも、定年退職後に地域活動の参画が社会的に求められている特に壮年男性に着目することにする。

保護者の地域参画に関して着目した既往研究には、片岡ら¹の学校・家庭・地域の三者連携に関して保護者の意識に着目して考察を行っているものや、渡邊ら²の地域と学校の活動の連携体制強化に影響する保護者を含めた人的な要因に関して調査を行ったものなどがある。これらはいずれも、教育環境づくりを主眼においた研究であり、本研究の地域参画に対するアプローチとは異なる。また時岡ら³、近藤ら⁴は、「おやじの会」のような特別な活動に着目し、男性の地域参画に与える影響に関して考察を行っているが、これらはいずれもケーススタディとしての研究であり、網羅的な知見を得られるには至っていない。本研究では、地域参画促進要件を満たす保護者活動の在り方について、より汎用性の高い知見を得ることを目的としている。

本研究における地域参画促進要件とは、ソーシャル・キャピタルとまちづくりスキルを念頭においている。ソーシャル・キャピタルには主にネットワークのような構造的ソーシャル・キャピタルと規範・信頼意識のような

表-1 アンケートの概要

実施日	2012年12月14日～16日
調査方法	インターネットリサーチ
調査対象地域	大阪府下
調査対象	小学生以上の子どもを持つ男女
回収数	男性450人(39歳以下150人, 40～49歳150人, 50歳以上150人), 女性150人(39歳以下50人, 40～49歳50人, 50歳以上50人)

認知的ソーシャル・キャピタルに分かれている。まちづくりスキルは、まちづくりを行うにあたり必要とされる能力であり、松村⁹⁾らは社会人基礎力のまちづくりへの適応に関して言及している。本研究においてはそのなかでもまちづくりの実践的な能力のうちの一つである地域とのコミュニケーションスキルを取り出して影響を検討する。

2. 調査の概要

(1) 調査の方法

本研究における調査では、壮年世帯、特に壮年男性の学校活動への従事の実態を把握し、その内容による地域参画要件への影響とその構造を把握することを調査の目的としている。そこで広域を対象に特定の層の抽出に適しているインターネットリサーチを用いて小学生以上の子どもを持つ男性450人、女性150人に対して、アンケート調査を実施した(表-1)。また、回答者の性別、年齢層に偏りがでないように性別ごとに39歳以下、40歳代、50歳以上にサンプルの割り付けを行った。質問項目は、保護者活動に関する設問、地縁活動・趣味活動に関する設問、地域参画促進要件に関する設問、個人属性などを中心に構成した。本論文においては壮年男性の特性を明らかにするために以降の分析では男性のデータを用いて分析する。

回答者の個人属性について表-2示す。職業別にみると会社員の比率が47%と半数近くを占めており、次いで11%が公務員・教職員となっている。居住地域は大阪府下の市町村を4地域(大阪市、北摂、河内、和泉)に区分したところ比較的均等に分かれていた。居住年数は11～20年が最も多く、働き始めてから新たに越してきた層が多い傾向が見られた。子どもの人数は2人が最も多く、最も年下の子どもの学齢は小学生以下が6割近くを占めている。

(2) アンケート項目

アンケート項目としては、地域活動の実態と地域に対

表-2 回答者属性

属性	選択肢	度数	%
職業	会社員	212	47.1
	会社員管理職	69	15.3
	会社経営	18	4.0
	公務員・教職員	51	11.3
	派遣社員	11	2.4
	自営業	40	8.9
	専門職	16	3.6
	アルバイト	12	2.7
	無職	17	3.8
	その他	4	0.9
居住地域	大阪市	126	28.0
	北摂地域	96	21.3
	河内地域	141	31.3
	和泉地域	87	19.3
居住年数	5年以下	76	16.9
	6～10年	113	25.1
	11～20年	150	33.3
	21年以上	111	24.7
子どもの数	1人	86	19.1
	2人	255	56.7
	3人以上	109	24.2
年少子ども学齢	小学生以下	267	59.3
	中高生	77	17.1
	大学生・社会人	106	23.6

する態度の把握を行うために表-3に示す変数を設定した。地域活動としては、小学校などの学校において保護者による組織が行う活動である学校活動、住民自治会など居住地域において住民が公共的な目的で行う活動である地縁的な活動、趣味や私的な目的のために集まった組織において居住地域を拠点として行う趣味的な活動の3つに分けて把握した。把握する内容としては、活動頻度、活動期間、それぞれの活動によって知り合った人の数、そのなかでもプライベートや他の地域活動など他の場でもつきあいのある人の数を選択肢として設定し、各活動種別において把握した。それぞれの活動を知り合った人の数は弱いパーソナルネットワークを含んだネットワークとして扱い、その活動だけではなく他の場でもつきあいのある人の数を強いパーソナルネットワークを表す指標として扱った。学校活動において活動内容については既往の研究⁹⁾の分類を参考に、授業参観や運動会など学校行事の参観、運動会などの学校行事の準備、保護者によるクラブ活動や体験型教室の指導、登下校時の治安維持などのPTAの各委員会が行う活動、PTAの会長や各委員会の委員長などPTA役員、学校で行う祭りなど保護者が参加して行う行事の企画、おやじの会など親が参加する親睦会、それ以外に分けて把握を行った(表-4)。

地域に対する態度については、因子分析を行って変数感の潜在的な関係を明らかにすることを試みた。最尤法

表-3 アンケート設問と単純集計

分類	ラベル	設問文	選択肢	平均 (標準偏差)
学校活動	学校活動内容	これまで参加したことのある学校の活動はどれですか	参観, 準備, 指導, PTA, 役員, 企画, 親睦会, その他	-
	学校活動頻度	最も多い時期で保護者活動に割っていた日数はどの程度ですか	ほぼ毎日, 週数回, 月数回, 年数回, 年数回未満, 無経験	-
	学校活動期間	累計でどのくらいの期間活動していましたか	5年以上, 3~5年, 1~3年, 半年~1年, 半年未満, 無経験	-
	学校PN弱	上記の活動をきっかけに知り合いになった人はどの程度いますか	50人以上, 31~50人, 11~30人, 6~10人, 1~5人, 0人	-
	学校PN強	その中でその後小学校での活動以外の場でもおつきあいのある人はどの程度いますか	同上	-
地縁的な活動	地縁活動頻度	最も多い時期で地縁活動に割っていた日数はどの程度ですか	ほぼ毎日, 週数回, 月数回, 年数回, 年数回未満, 無経験	-
	地縁活動期間	どのくらいの期間活動していましたか	5年以上, 3~5年, 1~3年, 半年~1年, 半年未満, 無経験	-
	地縁PN弱	地縁活動をきっかけに知り合いになった人はどの程度いますか	50人以上, 31~50人, 11~30人, 6~10人, 1~5人, 0人	-
	地縁PN強	その中でその後地縁活動以外の場でもおつきあいのある人はどの程度いますか	同上	-
趣味的な活動	趣味活動頻度	最も多い時期で趣味活動に割っていた日数はどの程度ですか	ほぼ毎日, 週数回, 月数回, 年数回, 年数回未満, 無経験	-
	趣味活動期間	どのくらいの期間活動していましたか	5年以上, 3~5年, 1~3年, 半年~1年, 半年未満, 無経験	-
	趣味PN弱	趣味活動をきっかけに知り合いになった人はどの程度いますか	50人以上, 31~50人, 11~30人, 6~10人, 1~5人, 0人	-
	趣味PN強	その中でその後地縁活動以外の場でもおつきあいのある人はどの程度いますか	同上	-
自治への参加意欲		地域のイベントにはできれば参加したい	強くそう思う, そう思う, どちらともいえない, そう思わない, 全くそう思わない	3.17(0.87)
		地域のまちづくりに興味がある		3.15(0.84)
		地域の持つ問題に対して何か取り組みたい		3.05(0.82)
		地域の役に立ちたい		3.21(0.83)
認知的ソーシャルキャピタル		地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい		3.55(0.79)
		地域の人々を信頼している		3.16(0.78)
		地域に住んでいる人とのつきあいを大切にしたい		3.30(0.81)
地域愛着		地域では地縁的な活動が盛んだと思う		3.05(0.80)
		地域に愛着を感じている		3.34(0.84)
		地域にずっと住み続けたい		3.40(0.88)
		地域にいつまでも変わってほしくないものがある		3.26(0.86)
コミュニケーションスキル		今住んでいる地域は住みやすいと思う		3.63(0.84)
		地域の人と話し合いや意見交換ができる		2.93(0.87)
		地域の人に対してリーダーシップがとれる		2.59(0.89)
生活満足度		地域をよくするためのアイデアがある		2.69(0.86)
		現在の生活が楽しい		3.35(0.85)
		自分は健康である	3.39(0.90)	
		今の生活は経済的に安定している	2.99(0.91)	

を用いて相関行列の固有値1以上の因子を抽出し、その後プロマックス回転を適用した結果、3つの潜在的な因子が抽出できた。それぞれの因子負荷量の値から、第1因子を自治への参加意欲、第2因子を地域愛着、第3因子

を規範・信頼と解釈した。それぞれの潜在因子ごとの変数について信頼性分析を行ったところ、クロンバックの α 係数が、0.923, 0.854, 0.938と良好な値を示したことから各因子に属する項目の平均値をそれぞれの得点とし

表-4 学校活動内容

	30歳代	40歳代	50歳代	合計
参観	131(87.3)	128(85.3)	107(71.3)	366(81.3)
準備	20(13.3)	29(19.3)	38(25.3)	87(19.3)
指導	9(6.0)	11(7.3)	17(11.3)	37(8.2)
PTA	15(10.0)	15(10.0)	20(13.3)	50(11.1)
役員	8(5.3)	11(7.3)	20(13.3)	39(8.7)
企画	5(3.3)	7(4.7)	12(8.0)	24(5.3)
親睦会	5(3.3)	16(10.7)	23(15.3)	44(9.8)
その他	1(0.7)	4(2.7)	6(4.0)	11(2.4)
参加なし	16(10.7)	18(12.0)	42(28.0)	76(16.9)
参観のみ	99(66.0)	78(52.0)	51(34.0)	228(50.7)
参加	35(23.3)	54(36.0)	57(38.0)	146(32.4)

て以降の分析に用いることにした。

3. 学校活動の特性把握

(1) 学校活動の特性

学校活動の内容別の参加有無について把握した(表-4)。参観は他の活動に比べて8割以上の人に参加経験があり、参加のハードルの低い活動であるといえる。学校行事の準備やPTAの委員会活動は学校からの受動的な活動であるため、参加率は1~2割程度で比較的高い。その他の活動については活動の参加率は低いもののそれらの活動を通じて知り合った人の数については、参観、準備、PTAの活動のみに参加している人と比較して有意に高かった。以上のことから学校活動による分類として、学校活動に全く参加していない不参加層、授業参観のみに参加している参観層、学校からの要請にしたがって学校・学級活動の補助を受け身的に行う受動型層(学校行事の準備とPTA委員会活動)、学校側の指示だけではなく自主的に活動を行っている能動型層(PTAの役員、児童の指導、行事の企画、親睦会)と分けることとする。

年齢層別では、不参加層の割合が若くなるほど減少していることから、徐々に学校活動に参加する男性が増加していることがわかった。しかしながらその内容については参観層の割合が増えている一方で、受動型、能動型の活動が減少しつつあり、学校活動を通じて地域の人々知り合う機会の減少が危惧される結果となった。

学校活動と地縁的な活動、趣味的な活動とを活動頻度、活動期間、活動を通じて形成されるパーソナルネットワークの観点から実態を比較する。学校活動が無経験の人の割合は17%と地縁的な活動の66%、趣味的な活動の76%と比較すると極端に低く、地域の人々接する機会として貴重であることが明らかになった。活動期間も他の活動と比較しても長期になる傾向が強いが活動を通じて

表-5 地域活動の集計

	選択肢	学校活動	地縁活動	趣味活動
活動頻度	ほぼ毎日	3	5	2
	週数回	19	14	22
	月数回	62	54	41
	年数回	167	52	24
	年数回未満 無経験	123	29	18
活動期間	5年以上	129	44	31
	3~5年	67	29	22
	1~3年	70	27	13
	半年~1年	35	11	6
	半年未満	73	43	35
PN弱	31人以上	6	6	6
	11~30人	29	23	18
	6~10人	57	50	30
	1~5人	148	55	40
	0人	131	18	8
PN強	31人以上	0	2	1
	11~30人	8	4	4
	6~10人	23	21	19
	1~5人	135	76	61
	0人	208	51	22

PN: パーソナルネットワーク

知り合った人の数や他の場でもつきあいのある人の数は、活動に参加している人のなかで比較すると他の活動より低く、活動を通じてパーソナルネットワークを広げる機能としては限定的であるといえる。これは学校活動のなかに授業参観など地域の他の人と交わらなくても成立する活動を含んでいることによるものと考えられる。

(2) 学校活動によるパーソナルネットワークの要因分析

学校活動が地域活動に連結していくためには地域の人々のネットワークをこの時期に形成できるかどうかが大きく関わってくる。そこで、学校活動を通じての知り合いの数を外的基準とし、学校活動の頻度等の特性、個人属性をアイテムとした数量化分析による要因分析を行った(表-6)。知り合いの数として弱い学校活動を通じたパーソナルネットワークの知り合いの数と強いネットワークの他の場でもつきあいのある人の数の2種類を行った。

その結果、弱いパーソナルネットワーク、強いパーソナルネットワークの両方において、子どもの数を除く個人属性は有意であったものの学校活動の種類が最も大きな偏相関係数を取り、支配的な要因であった。いずれにおいても不参加、参観、受動型、能動型の順でカテゴリスコアの値が大きくなっており、学校への関与が大きく、自主的になるほどパーソナルネットワークの形成に寄与することが明らかになった。

表-6 学校パーソナルネットワークの要因分析

アイテム	カテゴリ	学校PN弱		学校PN強	
		CS	R	CS	r
年齢	30歳代	-0.118		0.025	0.069
	40歳代	-0.108	0.18**	-0.057	
	50歳代	0.226		0.032	
職業	会社員	0.036	0.139**	0.014	0.120*
	管理職	-0.009		0.020	
	会社経営	0.048		0.050	
	公務員教職員	-0.179		-0.129	
	派遣社員	0.130		0.165	
	自営業	0.003		0.059	
	専門職	-0.075		0.001	
	アルバイト	-0.127		-0.140	
	無職	0.270		0.011	
	その他	-0.532		-0.334	
居住地域	大阪市	0.184	0.158**	0.162	0.179**
	北摂	-0.027		-0.088	
	河内	-0.094		-0.064	
	和泉	-0.085		-0.034	
居住年数	5年以下	-0.100	0.103*	-0.120	0.135**
	6~10年	-0.011		-0.049	
	11~20年	0.101		0.091	
	21年以上	-0.056		0.010	
子ども人数	1人	0.004	0.016	-0.017	0.024
	2人	0.008		-0.003	
	3人以上	-0.021		0.022	
学校活動	不参加	-0.906	0.680**	-0.473	0.539**
	参観のみ	-0.226		-0.119	
	受動型	0.145		0.201	
	能動型	1.234		0.708	
決定係数		0.499**		0.328**	

注)CS: カテゴリスコア, r: 偏相関係数を示す
偏相関係数の*は5%有意, **は1%有意を示す

表-7 学校活動型の特性

項目	年齢層	能動型	受動型	参観型	不参加
参画意欲	30代	3.20	3.44	3.03	3.00
	40代	3.46	3.07	3.12	2.88
	50代	3.61	3.37	2.93	3.03
地域愛着	30代	3.39	3.56	3.31	3.08
	40代	3.50	3.17	3.49	3.28
	50代	3.74	3.53	3.45	3.27
規範・信頼	30代	3.19	3.43	3.17	2.96
	40代	3.48	3.22	3.28	3.10
	50代	3.65	3.39	3.12	3.13
コミュニケーションスキル	30代	2.92	2.79	2.60	2.56
	40代	2.91	2.85	2.67	2.56
	50代	3.32	2.81	2.48	2.77
生活満足度	30代	3.36	3.62	3.34	3.06
	40代	3.38	3.09	3.36	3.06
	50代	3.58	3.58	3.43	3.21

ね高い値を示している。規範・信頼については、40歳代、50歳代の能動型で高い値を示している。地域とのコミュニケーションスキルについては、参観型、不参加型が低い値が低く、能動型、受動型が高い値となった。

(2) 地域への態度、地域とのコミュニケーションスキルの要因分析

学校活動によって形成されたパーソナルネットワークが地域への態度や地域とのコミュニケーションスキルに及ぼす影響を明らかにするために、数量化I分析を行った(表-8)。アイテムとしては個人属性、地域活動による強いパーソナルネットワークをあげた。

自治への参画意欲については、学校活動によるパーソナルネットワークが有意な影響をあたえており、学校活動を通じて知り合いがいない人よりも知り合いがいる人のほうが参画意欲が高い傾向にある。地縁活動によるパーソナルネットワークも学校活動と同じ傾向がみられるが、影響としては学校活動のほうが大きい。地域愛着については、地域活動を通じてのパーソナルネットワークよりも居住年数のほうが影響が大きい。この結果は地域活動の種別ごとの影響を把握したものではないが、既往の研究の実績と一致している。地域の規範・信頼に対しては、居住年数、職業と同程度に学校活動のパーソナルネットワークも要因としてあげられた。その一方で地縁活動のパーソナルネットワークは数が多いほど、規範・信頼の意識が高い傾向はみられるものの偏相関係数をみても影響としては限定的となった。地域とのコミュニケーションスキルについては、学校活動と地縁活動のパーソナルネットワークが最も大きな偏相関係数の値をとり、有意水準1%で有意なことから、これらの活動は、地域の顔見知りの人を増やすと同時に、リーダーシップなど

4. 学校活動タイプと地域への態度の関連性

(1) 学校活動タイプ別の年代間比較

学校活動のタイプごとに、自治への参画意欲、地域愛着、規範・信頼、コミュニケーションスキルの平均値を年代毎に算出した(表-7)。全体的な傾向として、40歳代の受動型を除いて、すべての変数項目について同じ年齢階層で比較すると、参観型、不参加型に比べて、能動型、受動型の学校活動に参加している層の値が高い。なかでも能動型の層がより高い傾向にある。特に、能動型の学校活動に参加してきた50歳代ではすべての項目で高い値を示した。

自治への参画意欲については、仕事が忙しくなる40歳代で一時的に参観型と同程度の値であるのに比べて、能動型は40歳代、50歳代を通じて高い参画意欲を維持していることがわかる。地域愛着については、能動型、受動型に加えて、参観型を加えたすべての年齢層において概

表-8 地域への態度、地域とのコミュニケーションスキルの要因分析

アイテム	カテゴリ	サンプル数	参加意欲		地域愛着		認知的ソーシャル・キャピタル		地域とのコミュニケーションスキル	
			CS	r	CS	r	CS	R	CS	r
年齢	30歳代	150	0.004	0.004	-0.051	0.004	-0.051	0.063	-0.016	0.040
	40歳代	150	-0.000		0.018		0.050		-0.023	
	50歳代	150	0.004		0.032		0.007		0.038	
職業	会社員	212	-0.021	0.194**	0.032	0.143**	0.041	0.150**	-0.027	0.183*
	管理職	69	0.150		0.039		0.035		0.081	
	会社経営	18	-0.177		-0.261		-0.306		0.033	
	公務員教職員	51	-0.199		0.013		-0.087		-0.213	
	派遣社員	11	-0.051		0.015		-0.257		0.148	
	自営業	40	-0.058		-0.095		-0.063		0.083	
	専門職	16	-0.159		-0.217		-0.123		-0.070	
	アルバイト	12	0.638		0.158		0.215		-0.015	
	無職	17	0.036		0.049		0.003		0.004	
	その他	4	0.512		0.360		0.223		-0.077	
居住年数	5年以下	76	-0.180	0.116**	-0.180	0.166**	-0.136	0.143**	-0.105	0.073
	6～10年	113	0.030		-0.080		-0.071		0.032	
	11～20年	150	0.018		-0.008		0.024		0.003	
	21年以上	111	0.071		0.217		0.135		0.044	
子ども人数	1人	86	0.036	0.040	0.058	0.045	0.044	0.035	-0.028	0.021
	2人	255	0.008		-0.029		-0.017		0.003	
	3人以上	109	-0.046		0.022		0.005		0.014	
学校PN	0人	208	-0.105	0.194**	-0.066	0.108*	-0.067	0.134**	-0.129	0.222**
	1～5人	135	0.228		0.140		0.124		0.250	
	6人以上	31	0.029		0.023		0.159		0.121	
地縁PN	0人	51	-0.053	0.143**	-0.032	0.073	-0.014	0.047	-0.089	0.222**
	1～5人	76	0.111		0.105		0.013		0.224	
	6人以上	27	0.361		0.192		0.068		0.444	
趣味PN	0人	22	-0.005	0.136**	0.023	0.085	0.014	0.133**	-0.009	0.096*
	1～5人	61	0.145		-0.015		0.058		0.044	
	6人以上	24	-0.320		-0.294		-0.475		0.162	
決定係数			0.381**		0.287**		0.286**		0.441*	

注)CS：カテゴリスコア，r：偏相関係数を示す。偏相関係数の*は5%有意，**は1%有意を示す

も含めたコミュニケーションスキルの向上の場としても機能していることが推測される。趣味的な活動を通じてのパーソナルネットワークは、地域とのコミュニケーションスキルは数が多い人ほどスキルが高い傾向が見られたが、それ以外は一定の傾向がみられず、特に趣味的活動のネットワークが豊富な人は地域自治への参画意欲や地域愛着、規範・信頼が低くなっている。

以上のように学校活動を通じて形成されたネットワークは地域への態度やコミュニケーションスキルに対して、正の影響を与えることが明らかになった。

5. まとめ

本研究では、大阪府下の壮年世帯を対象にインターネットリサーチを用いて地域活動、特に保護者の学校活動に着目したアンケート調査を実施した。その結果以下のことが明らかになった。

- ・保護者による学校活動は、その参加率より、不参加型、参観型、受動型、能動型に分けることができる。なかでも参観は他の活動に比べて8割以上の人に参加経験があり、参加のハードルの低い活動であるといえる。
- ・学校活動と地縁的な活動、趣味的な活動とを比較すると学校活動を無経験の人の割合は地縁的な活動、趣味的な活動と比較すると極端に低く、接触程度は別にしても地域の人々接する機会として貴重であることが明らかになった。
- ・学校活動を通じてのパーソナルネットワーク数の要因分析を行った結果、学校活動の種別が支配的な要因であり、学校への関与が大きく、能動的な活動に参加しているほどパーソナルネットワークの形成に寄与することが明らかになった。
- ・学校活動のタイプごとに、地域への態度、コミュニケーションスキルの平均値を年代毎に算出したところ、仕事が忙しくなると考えられる40歳代を除いて、参観型、不参加型に比べて、能動型、受動型の学校活動に

参加している層の値が高い。なかでも能動型に参加している層は値が高い傾向がみられる。これらの変数の要因分析を行ったところ、学校活動のパーソナルネットワークはすべての項目で有意な影響を与えていることから、学校活動によるパーソナルネットワークが多い人ほど地域に対する態度はポジティブとなる傾向が明らかにされた。

以上のことから各年代の男性を対象にした学校活動について考察を行う。30歳代の小学生の子どもがおり学校活動への参加モチベーションが高いと考えられるこの時期に、今後の学校活動のモチベーションや地域参画の礎となるパーソナルネットワークの構築を行うことで地域への態度の形成につながる事が期待される。40歳代では、仕事の負担増や子どもの成長により学校活動への参加モチベーションが下がってくることから、受動型の活動に対して特に意欲が下がることが懸念される。さらに、頻繁に活動に参加することが難しいことから、低頻度でも参加でき、レクリエーション要素の高い活動であるおやじの会などが地域のまちづくり人材育成の面でも合理的な活動と示唆される。近年、おやじの会などでは、SNSによるweb上でのつながりを利用するなどの工夫をとられている例も多いことから能動型の活動に参加し続けることも可能になりやすい環境が整いつつある。50歳代においては、学校活動への参画のモチベーションから地域活動への参画のモチベーションへの切り替わりが起こっていくと考えられる。そのスムーズな移行が行われるためには学校活動のなかでもより地域との接触が多いものに従事することが地域活動への転換を果たすためのよいきっかけとなりうる。それには、学校が主体となってコーディネートとなる組織の設置や地域の様々な組織へ

の連携の呼び掛けといった働き掛けが重要となってくる。その際、より地域のオリジナリティの高い活動に共同で取り組むことにより、より地域との連携も密になりやすい⁷⁾。

参考文献

- 1) 片岡千香子・藍澤宏・菅原麻衣子：保護者の意識に見る教育環境づくりのあり方—学校・家庭・地域の連携による取り組みの現状と課題—, 日本建築学会計画論文集, Vol.74, No.591, pp.57-64, 2005.
- 2) 渡邊恵・藍澤宏・菅原麻衣子：小学校における活動展開の人的要件：地域の教育力を活かした学校と地域との連携体制のあり方に関する研究, 日本建築学会計画論文集, No.614, pp.81-88, 2007.
- 3) 時岡晴美・嘉藤整：『おやじの会』の発展過程にみる男性の地域参画：まちづくり主体としての課題と可能性, 日本建築学会四国支部研究報告集, No.9, pp.77-78, 2009.
- 4) 近藤由佳・藍澤宏・菅原麻衣子：おやじの会に着目した壮年男性の地域参画要件に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.429-430, 2007.
- 5) 松村暢彦・尾田洋平：行政職員のパーソナルネットワークとまちづくり基礎力の関連性, 土木学会論文誌 D3, Vol.68, pp.197-206, 2012.
- 6) 大崎功雄：学校をひらくとはどういうことか？近年の諸答申にみる開かれた学校観, 北海道教育大学紀要, Vol.57, No.1, pp.1-16, 北海道教育大学, 2006.
- 7) 菅原麻衣子・藍澤宏・山田将史：小学校における地域の教育力を活かした活動発展の要件—次世代に向けた教育環境の整備指針と方法 その1—, 日本建築学会計画系論文集, No.611, pp.37-43, 2007.

(2015.04.23受付)

THE ROLE OF PARENT ACTIVITIES IN ELEMENTARY SCHOOL IN THE FORMATION OF SOCIAL NETWORK

Nobuhiko MATSUMURA and Shin KONDO

Participants of town planning activities are biased to the elderly in many municipalities. Therefore, there is an urgent need to promote the participation in the community of middle age men, viewed from the perspective of the development of the successor. Elementary school can be mentioned as one of the places that connect the middle age men and community. In fact, the role of elementary school in community activities became important by increase contact community and school and diversification of activities patients. In this study, I examined about useful existence of activities patients for promoting community participation of middle age men by web research. In results, it revealed that network formation has contributes to raising awareness community participation and activities frequent contact with adult have particularly high effects for it. When they are young, it is important to make network and when they are old, it is important to continue activities, it has suggested.